

報道関係者 各位

2024 年 10 月 2 日

公開講演会「民族×アートの現在——美をめぐる政治のゆくえ」**2024 年 11 月 8 日(金)日経ホール(東京)にて開催！**

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、みんな公開講演会「民族×アートの現在——美をめぐる政治のゆくえ」を2024年11月8日(金)に日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル3F)にて開催します。

【趣旨】

民族の社会や文化に根付いたアートは、グローバルな社会構造のなかで周縁化されたマイノリティにとって、集団アイデンティティやルーツを再認識させる力があります。それゆえ、ナショナリズムや政治運動においても重要なメディアとなってきました。

しかし、歴史的に見ると、世界各地の民族のアートは、しばしば近代西洋の他者との出逢いによって「発見」され、植民地的なまなざしのもとで「エスニックアート(民族美術)」として成立してきたという背景があります。また、普遍的とされる西洋の芸術に対して、それらは民族の文化にもとづく特異な表現形態と見なされ、展示される場や消費される文脈が異なってきました。

博物館・美術館の脱植民地化が問われる今日では、民族とアートをめぐる批判的な再検討が進められています。本講演会では、アートという視点から、民族の文化をめぐる歴史と政治の複雑なかかわりを考えてみたいと思います。



The poster features a vibrant, chaotic illustration of a protest or social movement. It includes various figures, some holding flags and signs with text in Spanish like '¡CAMBIA DONDE EL PUEBLO NO SE ATORNO EN UN PASO QUE NO VAN POR TODOS!' and '¡ABAJO EL IMPERIALISMO EJECUTIVO! ¡NO RENUNCIEMOS AL PALACIO!'. The Japanese text '民族×アートの現在' is prominently displayed in large, bold characters. Below the illustration, the event details are provided: '2024年11月8日[金] 18時30分-20時40分(17時30分開場)'. The venue is '日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7日経ビル3F)'. The ticket information is '参加費:無料(事前申込み制) 定員:600名(先着順) ※予選通過あり'. At the bottom, the organizers are listed as '主催 国立民族学博物館 National Museum of Ethnology 日本経済新聞社'.

【登壇者】**[趣旨説明]**

松尾 瑞穂(国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授)

[講演1]文化とアートを鑄直す―植民地状況下のアフリカ・ダオメを例に

柳沢 史明(西南学院大学・国際文化学部・准教授)

アフリカのベナン(旧ダオメ)の土産物に真鍮製の小型像がある。この彫像の歴史や流通過程を振り返りつつ、そこから見えてくる民族的伝統と植民地化の力学についてお話したいと思う。

[講演2]誰が民衆芸術を作ったか―ラテンアメリカにおける国家と作家の役割

鈴木 紀(国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授)

メキシコやペルーでは、多様な民族の優れた手工芸品を民衆芸術と呼ぶ。国家の芸術振興策に対する個々の作家たちの反応を見ることで、いかに民衆芸術が成立したかを考えたい。

[コメント]

吉田 憲司(国立民族学博物館長)

[パネルディスカッション]

柳沢 史明×鈴木 紀×吉田 憲司×松尾 瑞穂

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

【プログラム】

17:30	開 場	
18:30 - 18:35	開会挨拶	荻野 雅史(日本経済新聞社大阪本社 編集ユニット長補佐)
18:35 - 18:40	挨 拶	吉田 憲司(国立民族学博物館長)
18:40 - 18:50	趣旨説明	松尾 瑞穂(国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授)
18:50 - 19:20	講 演 1	柳沢 史明(西南学院大学・国際文化学部・准教授) 「文化とアートを鑄直す—植民地状況下のアフリカ・ダオメを例に」
19:20 - 19:50	講 演 2	鈴木 紀(国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授) 「誰が民衆芸術を作ったか—ラテンアメリカにおける国家と作家の役割」
19:50 - 20:00	休 憩	
20:00 - 20:40	コメント ディスカッション	吉田 憲司 柳沢 史明×鈴木 紀×吉田 憲司×松尾 瑞穂
20:40	終 了	

【登壇者プロフィール】

**柳沢 史明（西南学院大学・国際文化学部・准教授）**

専門は芸術学、植民地文化論。フランスと西アフリカの芸術や造形文化を主要な研究テーマとしている。著書に『〈ニグロ芸術〉の思想文化史』（2018年、水声社）、『アフリカからアートを売り込む』（共編著：2021年、水声社）がある。

**鈴木 紀（国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・教授）**

専門は文化人類学とラテンアメリカ文化論。現在、ミュージアムスタディーズの立場から、ラテンアメリカの先住民族表象を研究中。国立民族学博物館の特別展『ラテンアメリカの民衆芸術』（2023年）を企画。共編著に『古代アメリカの比較文明論—メソアメリカとアンデスの過去から現代まで』（2017年、京都大学学術出版会）など。

**松尾 瑞穂（国立民族学博物館・超域フィールド科学研究部・准教授）**

専門は文化人類学。主な研究テーマはインドのリプロダクションとジェンダー、家族。著者に『ジェンダーとリプロダクションの人類学—インド農村社会の不妊を生きる女性たち』（2016年、昭和堂）、編著に『サブスタンスの人類学—身体・自然・つながりのリアリティ』（2023年、ナカニシヤ書店）など。

**吉田 憲司（国立民族学博物館長）**

国立民族学博物館の第6代館長。2017年4月から現職。アフリカを中心とした儀礼や仮面の研究を進めるとともに、ミュージアム（博物館・美術館）における文化の表象のあり方を研究している。主な著書に『仮面の世界をさぐる アフリカとミュージアムの往還』、『文化の「発見」』、『宗教の始原を求めて』など。

【開催概要】

講演名	公開講演会「民族×アートの現在——美をめぐる政治のゆくえ」
日時	2024年11月8日(金) 18:30～20:40(開場17:30)
会場	日経ホール(東京都千代田区大手町1-3-7 日経ビル3F)
定員	600名(事前申込み制/先着順/無料) ※手話通訳あり
ライブ中継	本講演は会場内のほか、WEBライブ中継(要事前申込み/定員なし/無料)でも参加いただけます。
主催	国立民族学博物館、日本経済新聞社

【申込み方法】

申込方法 会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、下記公式サイト内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/55138

受付期間:2024年10月3日(木)10時～10月30日(水)17時

講演会
お問合せ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 研究協力課
TEL:06-6878-8209 Mail: minpakukoenkai@minpaku.ac.jp

【お問合せ】 国立民族学博物館 総務課 広報係
TEL:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press